

今朝も皆さまとともに主を礼拝できます幸いに感謝いたします。9月の最初の主日を迎えました。まだまだ暑い中ですが、先週は雨も降りやっとな暑さのピークを過ぎたのかなと感じるようなそんな日々を過ごしています。皆さまの上に神さまの祝福と守りが続いておりますよう心からお祈りしています。エペソ人への手紙の最後、6章を共に読んでみました。これまでパウロは悪魔の策略に対抗するために、神の武具を取ることを私たちに教えていました。

今回は救いのかぶとをかぶることと、御霊の剣すなわち神のことばを取ることを教えられていました。17節。

救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい。

神さまの恵みによって救われていること。イエスさまの十字架の恵みを最も大切な私たちの確信として自分自身や隣人を見ていくこと。御霊の剣である聖書のみことばによって悪魔の誘惑に打ち勝っていくことの大切さを共に教えられました。

どんな時も・どんなことも祈る

今日の箇所では神の武具の最後として「祈り」をパウロが挙げています。神の武具。私たち信仰者にとって最後にして最大の武器は祈りである。祈ることにこそ、私たち信仰者の歩みの秘訣、信仰の戦いの勝利の秘訣があるのだということを今朝はともに覚えたいと思います。今日の18節。

あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。

パウロはどんな時にも御霊によって祈りなさいと教えます。どんな時も祈る。これは私たちにとってとても大切な聖書の教えです。祈ること。神さまに呼びかけ自分の思いや願い、感謝を伝えることを聖書は私たちに教えています。祈りは聖書を読むこととともに私たち信仰者の基本であり、日々祈り神さまと交わりを持つことを聖書は私たちに勧めるのです。

そしてこの祈りは、私たちが悪魔の策略に対抗するためにとても大切なものであると今朝のみことばは教えています。今日の礼拝でも、主の祈りを私たちは祈りました。これはイエスさまがこう祈るようにと教えてくださいました祈りです。主の祈りの中でも「我らを試みにあわせず悪より救いいたしたまえ」と祈りました。悪魔の策略に惑わされないよう、信仰の戦いを戦い抜くことができるよう、私たちはいつも神さまに祈る必要がある。どんな時も神さまに祈る。自分のため互いのため、教会のためにいつも祈る私たちとされたいと思います。パウロは別の箇所でこう教えていました。テサロニケ人への手紙第一5章16-18節。

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

絶えず祈ること。いつもどんな時も祈りを絶やさないこと。神さまとの親しい、豊かな交わりのうちを私たちは生きる者とされたい。その交わりを通して、悪しきものから守られ神さまの前に誠実に堅実な歩みをしていく。そのような私たち八千代聖書教会とされたいと願います。

そして今日の箇所でパウロは、あらゆる祈りと願いによって、と語ります。あらゆる祈りと願いによって祈る。どんなことでも私たちは神さまに祈って良い。祈ることができると聖書は私たちに教えているのです。教会に初めていらっしゃった方や、イエスさまを信じて間もない方とお話しているとよく「何をどう祈ったら良いのですか」と聞かれることがあります。そこで私はいつも「なんでも祈っていいですよ」とお答えしています。「父なる神さま」と呼びかけること、イエスさまのお名前によって祈ること、最後にアーメンと言うこと。色々な祈りの決まり事というか形はありますが、その中身はなんでも良い。どんなことでも祈っていいし、どんなことでも神さまは聞いてくださる。それが私たちの信仰です。

あらゆる祈りと願いによって、どんな時でも祈る。いつでも、どんなことでも私たちは祈ることができる。祈りなさいと聖書は私たちを励ましています。小さな私たちの祈りに耳を傾けてくださる愛と恵みに満ちた神さまに祈ることができる幸い。神さまに祈りと願いを伝えることのできる幸いに私たちは目を向けて、どんな時もどんなことでも神さまに信頼して祈っていく者でありたい。苦しみや試みを経験する中でも祈ることを忘れずに信仰の歩みを進んでいきたいと願います。

御霊によって祈る

さらに御霊によって祈りなさいとパウロは言います。祈りを考える上で大事なこと、いつも祈るために必要なこと、それはこの御霊の助け、聖霊の導きです。どんな時でもどんなことでも私たちは祈っていいのですが、自分勝手

な祈りや、自分の願望や気持ちだけをぶつけるような、そんな祈りが推奨されているわけではありません。ヨハネの手紙第一5章14節にはこうあります。

何事でも神のみこころにしたがって願うなら、神は聞いてくださるということ、これこそ神に対して私たちが抱いている確信です。

私たちは自分の気持ちに素直に、正直に祈ります。しかしそれとともに、私たちがみこころにかなった祈りをすることができるよう整えられること。神さまのみこころをわきまえ知ることができるよう成長することが私たちには必要なのです。そのためには御霊の助けと導きが不可欠だということを私たちは覚えたいと思います。先主日も神のことば、聖書が御霊の剣と呼ばれていることに注目しました。聖書を自分勝手に解釈したり人を裁く道具に使ったりするのではなく、御霊の助け、聖霊の導きによって聖書を理解し実践していくことの大切さを覚えしました。私たちの信仰の歩み、悪魔との戦いにおいて大切なのはこの御霊・聖霊の働きです。御霊が私たちのうちにおられ助け導いてくださるからこそ、私たちは信仰の歩みを続けることができます。祈りの生活を続けることができます。弱く罪深い私たち、自分勝手に自分の願いや思いをぶつけるだけになってしまいがちな私の思いを神さまのみこころへと向け、みこころを祈ることができるようとりなし導いてくださるお方。それが聖霊なる神さまです。

ローマ人への手紙8章26節にこうあります。

同じように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです。

私たちは時に何をどう祈って良いか分からないことがある。あらゆる祈りと願いによってと言われても、何も祈りが出てこない。どうやって祈っていいか悩み苦しむことがあります。そんな私たちを聖霊は力づけ私たちのためとりなしてくださると聖書は教えるのです。御霊によって祈る。ただ自分の願いや訴えを祈るだけではなく、そこに聖霊の働きを求めていくこと。御霊の助けと支えによって、みこころにかなった祈りへと導かれていく。そのことを私たちは求め期待して、日々御霊によって祈る者とされていきたいと思います。

そしてパウロはさらに、私たちが自分のためだけではなく他の人のため、すべての聖徒のために祈るべきことを教えます。

あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。

目を覚まして、すべての聖徒のために祈る。祈りは私たちと神さまとの交わりです。それとともに祈りは、私たちが決して一人ではないこと。私のためにあなたのために祈ってくれている人がいることを私たちに教えるものでもあります。先日、久しぶりに教会の祈り会が再開されました。水曜日木曜日ともにみことばの恵みを分かち合い、互いの祈りの課題を分かち合って時間を過ごす幸いな時です。そこでも参加される方々が自分のことだけでなく、教会の方々や近所の人、助けや癒しを必要としている人のための祈りの課題を挙げてくださっていました。祈られる幸い、祈ることのできる幸い。教会の祈りの交わりのうちに私たちは生かされている。そのことを私たちは忘れずにいたいと思うのです。

すべての聖徒たちのために。これは八千代聖書教会の方々はもちろん、全国全世界にある主の教会、そこにある全ての人のために祈るということです。私たち八千代聖書教会の所属する千葉宣教区の教会や、日本同盟基督教団の諸教会、それ以外にもたくさんある主の教会の歩みが守られ、御旨にかなったものとなるように。苦しみの中にある教会や、痛みや弱さを抱えている方々に主の守りと慰め、恵みの導きがあるようにといつも祈る私たちとされたいと思います。

忍耐の限りを尽くして

最後にパウロは、忍耐の限りを尽くして祈りなさいと語っています。忍耐の限りを尽くして祈る。祈りには忍耐が必要だということです。祈っていても、時に思うようにいかないことや願ったこととは反対の出来事を経験することが私たちにはあります。自分のこともそうですし、他の人のことも癒しや回復、信仰を持って救われることや正しい導きを祈ってもなかなかそうはいかないことがある。せっかく祈っていたのにどうして、と残念な気持ちを味わうこともあります。

しかし聖書は、忍耐の限りを尽くして祈りなさいと。いつも目を覚まして祈りなさい、祈り続けなさいと教えるのです。忍耐の限りを尽くして。一度祈って違う結果になったからもう祈らないとか、何回か祈って答えが与えられなかったからもうダメだと諦める。そうではない。忍耐して祈ること。しかも忍耐の限りを尽くして祈ること。それほどに私たちは、私は熱心に忍耐深く祈っているだろうか。そんなことを思われます。これはもちろん毎日寝ないで

祈り続けなさいとか、たくさん祈ればそれだけ聞かれるということではありません。しかし祈りには忍耐が求められる。忍耐すること、神さまの時を信じて待つこと。そこに私たちの祈りのあるべき姿があるということです。そしてこの忍耐を通して私たちは、御前に成長することができると、聖書は約束するのです。ローマ人への手紙5章3-5節にこうあります。

それだけではなく、苦難さえも喜んでいきます。それは、苦難が忍耐を生み出し、

忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。

この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

苦難を通して、そこに忍耐することを通して、私たちは練られ成長していく。そこに本当の希望が生み出されていく。思い通りにいかない事柄、なかなかうまく進まない出来事を通して、またその中で祈り忍耐することを通して、私たちは成長し真の希望を抱く者となっていく。そのことを聖書は私たちに教えるのです。さらに福音書にはこんな言葉があります。ルカの福音書18章1節。

いつでも祈るべきで、失望してはいけないことを教えるために、イエスは弟子たちにたとえを話された。

いつでも祈るべきで、失望してはいけない。この後のたとえでもイエスさまは忍耐をもって粘り強く祈ることを教えられました。いつでも祈るべきで、失望してはいけない。普段の祈りの生活の中で時に祈ることを諦めたり、失望したりしてしまう私たち、私であることを思いますが、みことばはそんな私たちを励まし、忍耐をもって祈ることを教えます。どんな時も祈り、どんなことにも神さまの助けと恵みの解決を信じ忍耐していく。神さまの恵みを信じて、失望してはならない。諦めないでいい。希望を抱き続けていて良い。私たちの祈りを聞きそれに答えてくださる神さまに、私たちは信頼し期待してまいりたい。御霊の助けによってますます忍耐をもって祈り続ける者でありたいのです。

あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。

今日から始まるこの一週間、またすでに始まっているこの9月の歩みも、私たちは祈りをもって、いつでも祈ることを通して日々の歩みを進んでまいりたいと思います。教会の交わりの中互いに祈り合い、支え合って、悪魔の策略に負けずに歩んでいきましょう。決して失望に終わることのない希望を与えてくださる神さまに信頼して、どんな時も御霊によって忍耐の限りを尽くして祈る。そのような八千代聖書教会とますますさせていただきたいと思います。

お祈りをいたします。

「天のお父さま。みことばをありがとうございます。悪魔の策略や誘惑に満ちたこの地を生きる私たちに、祈ることの大切さを教えてくださりありがとうございます。どんな時も、またどんなこともあなたに祈り、あなたからの力と知恵をいただいてこの地を生きることができるよう私たちを続けて励まし導いてください。御霊の力と助けによってみこころにかなった祈りを、忍耐をもって続けることができますように。私たち八千代聖書教会の祈りの交わりも続けて支え励まし用いてくださいますようお願いいたします。あなたの恵みに感謝して、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」